

【別紙様式2】

令和3年度 がん教育総合支援事業 「がん教育外部講師派遣」 報告書 学校等名 <u>西海市立平島中学校</u> 担当者名 <u>山下 朋美</u> 電 話 <u>0959-47-2006</u> F A X <u>0959-47-2092</u>					
実施日	令和 3年 11月 24日(水) 9:10 ~ 12:10				
場 所	西海市立平島小中学校 多目的ホール(リモート開催)				
講座名	西海市平島中学校 がん教育講演会				
講 師	佐世保市総合医療センター 看護師 濱口 幸人 氏 (がん専門医・医療関係者・がん経験者等)				
近隣校への案内	案内先: 町内小中学校 計2校				
参加者	児童・生徒 全学年 (2)人	学校職員 (6)人	保護者 ()人	他校職員等 (1)人	その他 ()人
	(計 9)人				
テーマと内容	テーマ「がん患者に対する正しい認識を通して、命の大切さを考える」 ・がんという病気 ・緩和ケアについて ・事例を通して、がん治療の実際を知る				
＜当日の様子＞ * 事業の様子等を必ず画像で添付してください。					
					
＜講師からの指導や助言・成果＞ <ul style="list-style-type: none"> ・がんは、2人に1人がかかり、年間で37万人以上が亡くなっているが、早期発見・早期治療ができれば、なおる病気である。 ・平均入院日数は、短くなっており、外来で治療を続けている患者が多い。 ・緩和ケアチームには、様々な職種がいて、患者の不安や悩みにチームとして対応している。 ・価値観は人それぞれであり、何がしたいか、何を大切に思うか、患者一人一人の思いに寄り添うことが大切である。 ・がん患者の多くは、日常のささいなことを大切にし、幸せを感じている。死に直面して、当たり前だと思っていることが、幸せなことなのだ気付くことがある。 ○ 講演を聞いて、がんが身近な病気であると感じ、「将来がん検診を受けようと思う」や「身近な人がなった時には手助けしたい」といった感想をもつ生徒がいた。					
＜今後の取組及び課題＞ <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の感想から、がんを身近な病気だと感じ、自分の将来について考えることができていた。 ・今後も外部講師を活用した講演会等を通して、命の大切さや自分の健康について考え、自他共に大切にできる生徒を育成していきたい。 					